

# 2011 年度 神戸大学 地域に根差し人に学ぶ実践塾 募集要項

テーマ (1) 徳島編：漁村と山村から環境とまちづくりを考える

日程：8月19日(金)～22日(月)

学内協力団体：ささやまファン倶楽部，エコロ，木の家



テーマ (2) 大阪編：寄せ場と野宿の現場で希望を学ぶ

日程：8月26日(金)～29日(月)

学内協力団体：のじこん (神戸大学学生震災救援隊 野宿・貧困問題企画局)



申込み締め切り：2011年7月29日(金)

主催：神戸大学都市安全研究センター学生ボランティア支援室

※この企画は文部科学省「平成20年度 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された神戸大学の取組「地域に根差し人に学ぶ 共生的人間力——震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生活動支援——」の一環として実施されます。

## 1. 「地域に根差し人に学ぶ実践塾」とは

さまざまな社会問題に取り組んでいる現場を訪問し、それらの社会問題を踏まえた視点を獲得することにより、社会の仕組みを学んだり自己の生き方を考えたりする機会を、神戸大学の学生たちに提供します。毎回、学生ボランティア支援室の登録団体の学生たちといくつかのテーマを設定し、それぞれ、事前学習会を経て4日程度の現場実習を実施しています。いずれも学部や学年に関係なく参加することができます。2011年度は標記のとおり二つのテーマを設定しました。

## 2. 参加申込について

募集対象	神戸大学生
募集定員	各テーマ15名（先着優先） 定員に空きがある場合はテーマ(1)と(2)の両方に参加することも可能です。
提出書類	参加申込書（巻末あるいは <a href="http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/">http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/</a> よりダウンロード）
提出先	学生ボランティア支援室（次頁参照） 直接持参あるいは上記よりダウンロードしたファイルに記入のうえ、 svs@port.kobe-u.ac.jp まで送信
締め切り	2010年7月29日（金）午後5時
参加費用	受講料は無料。ただし、ボランティア保険代500円（未加入者のみ※1）と、実習参加中の食費は自己負担となります。宿泊費は無料。テーマ（1）の交通費（バス移動）は無料です。テーマ（2）の移動にかかる交通費（電車代）は自己負担となります。

※実践塾に参加する場合は、ボランティア保険（「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」）に加入する必要があります。未加入の方は学生ボランティア支援室で加入手続きを行います。保険料は事前学習のときに徴収します。なお、所属団体などで既にボランティア保険に加入している場合は、新たに加入する必要はありません。

## 3. 終了後にお願いすること

### 1) レポート

終了後、参加者はレポートを提出しなければなりません。レポートの字数や締め切りなどは実習中に指示します。レポートを提出した参加者には、修了証を交付します（単位認定は行いません）。

### 2) 報告会

報告会の開催を予定しています（実施日時未定、参加は任意）。各テーマ参加者数名に報告をお願いすることになります。

#### 4. 問い合わせ先

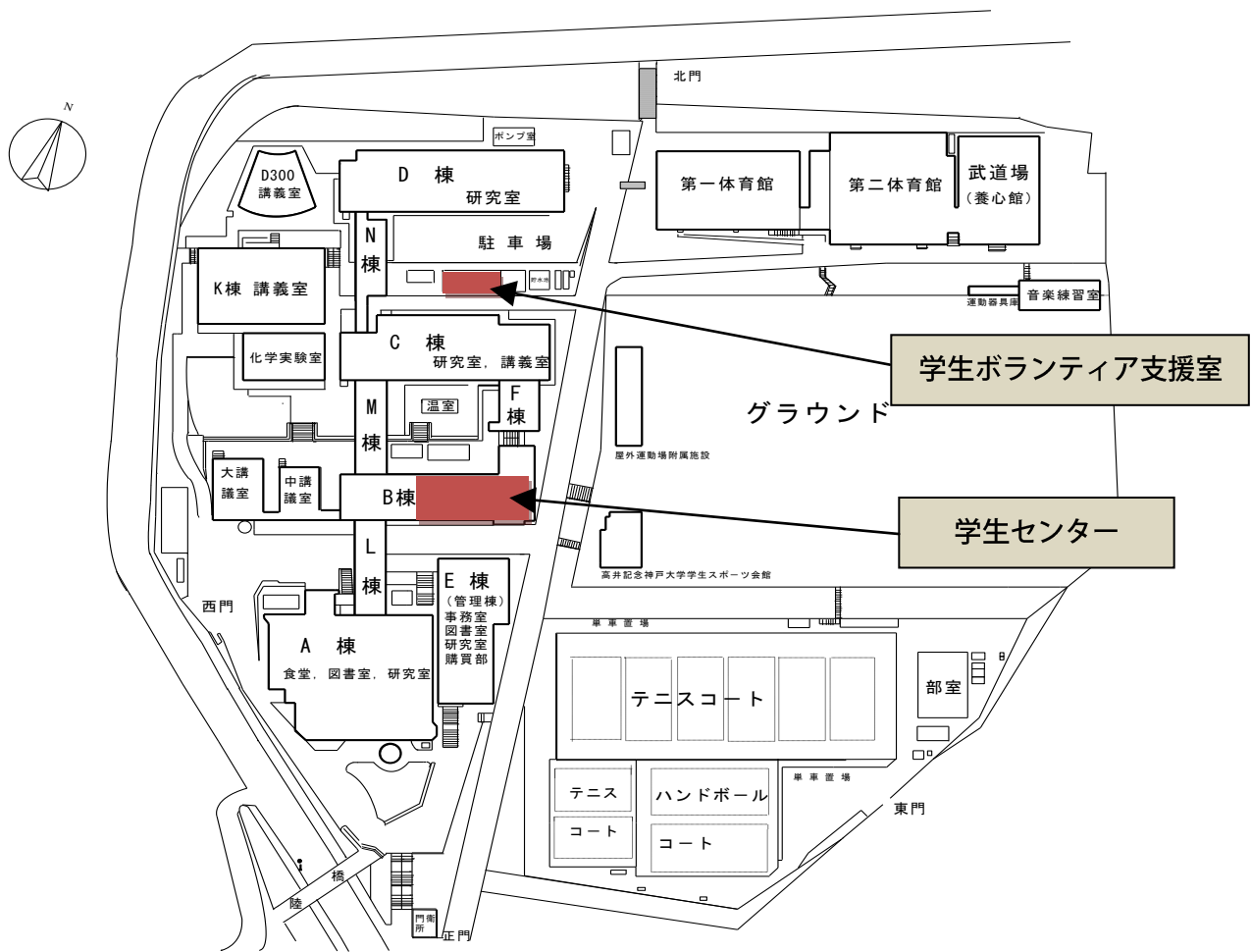
神戸大学学生ボランティア支援室（平日朝 11 時～夕方 18 時まで）

TEL : 078-803-6256

FAX : 078-803-6028

E-mail : [svs@port.kobe-u.ac.jp](mailto:svs@port.kobe-u.ac.jp)

URL : <http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>



鶴甲第1キャンパス（国際文化学部キャンパス）

# テーマ(1) 徳島編

## 漁村と山村から環境とまちづくりを考える

### —徳島県日和佐町のウミガメと共生するまちづくりと上勝町の持続可能なまちづくり—

参加定員 15 名, 2011 年 8 月 19 日 (金) ~8 月 22 日 (月)

#### ◎ねらい

高度経済成長期以降、急速に都市化が進む中で、都市部への人口流出が続き、漁村・農山村の高齢化・過疎化に歯止めがかからず、地域の活力が低下してきている。日本の国土の大部分は都市部以外の漁村や農山村から成り立っており、その環境を長年守ってきた人々が知恵と共に消えつつあり、これは環境の面でも文化の面でも大きな損失となる。山村や漁村に暮らす人々がいてこそ、地域やその環境は適切に利用・保全されるのであり、こうした人々の暮らしを都市部に住む人々、とりわけこれからを担う若年層が考えていかなければならない。

山村・漁村の現状と課題を環境とまちづくりの視点から学び、都市部とそれ以外の地域との関係性を改めて考える機会を提供することで、学生自身の今後の生き方を見つめ直すきっかけとする。

#### ◎実習

1 日目は、過疎化が進む美波町で、ウミガメと共生したまちづくりに取り組んでいる日和佐町地区を訪問し、ウミガメ博物館カレッタを見学する。ウミガメと現地の方がどのように生きてきたのか、ウミガメの生態や歴史を踏まえながら学ぶ。

2 日目は、「なにもないけど、なにかある！」をキャッチフレーズに、住民同士の違いを認め合いながら自分たちで考え、自分たちで行動する「伊座利の未来を考える推進協議会」



図1:本テーマで訪れる地域の位置関係(徳島県の地図)

の協力をいただき、伊座利の魅力に触れる。平成 13 年の高齢化率は 38%だったのが、平成 20 年には 26%と減少し、若者定住化、人口増が実現したのは何故だろうか。都市との交流や雇用創出など、さまざまな趣向を凝らしてきた住民との交流を通して、住民ひとりひとりの目から見た地域の今と将来像について学ぶ。

次に、過疎化が進む山村でありながら、地域活性化のあらゆる方面で日本のみならず世界から注目されている上勝町で、持続可能なまちづくりについて学ぶ。上勝町は、日本の棚田百選に選ばれた檜原の棚田や、千年の森作りをしている高丸山、カヌーも楽しめる美愁湖など日本の原風景ともいえる豊かな自然に恵まれている。しかし上勝の一番の魅力は「人」であるという。町の魅力に惚れ込んで県内外から I ターン・U ターンで移住してくる若者も多い。

3 日目は、「葉っぱビジネス」「ゼロ・ウェイスト運動」「高齢者福祉の町」「住民主体のまちづくり」「光

ファイバー導入」などの取り組みに触れた後、ゴミ収集車が走らないかわりに住民が自らゴミステーションにゴミを持ち込み 34 種類に分別するという、上勝式ゴミ捨てを体験する。

4 日目は、上勝ツーリストの主催する視察に参加し、ゴミの取り組みや葉っぱビジネス、木質バイオマスの取り組みの説明をしていただくことで、地域活性化につながるコンセプトやシステムづくりについて体系的に学ぶ。

○参考

上勝ゼロ・ウェイストアカデミー <http://www.zwa.jp/about/activity/index.html>

株式会社いろどり [http://www.irodori.co.jp/asp/nwsitem.asp?nw\\_id=2&design\\_mode=0](http://www.irodori.co.jp/asp/nwsitem.asp?nw_id=2&design_mode=0)

上勝町役場 <http://www.kamikatsu.jp/biomas/>

◎日程（案）

事前学習		
8月上旬	10:00～	神戸大学国際文化学部内にて。2時間程度。 事前に現地の地域活性化の現状を学び、各自の調べたいテーマを立てます。
フィールドワーク		
8/19(金)	8:00 12:30 13:00～14:30 15:00～16:30 18:00	阪急六甲駅前・ケンタッキーフライドチキン前集合、8:30 バス出発（時間厳守） 美波町日和佐地区 着 【レクチャー①】日和佐ウミガメ博物館カレッタ見学 【フィールドワーク①】観光ボランティアガイドによる「のんびりウミガメコース」散策 大浜海岸→日和佐八幡神社 宿泊：倶楽部イザリーノキャンプ場
8/20(土)	10:00～12:00 12:00 13:00 15:00 17:00	伊座利のとりくみ 【フィールドワーク②】 漁港見学、漁師の方々と交流 昼食「伊座利 café」アワビ？ 【レクチャー②】伊座利の未来を考える推進協議会 漁村留学制度、産直市、クリーンアップ活動、都市との交流 宿泊：倶楽部イザリーノキャンプ場
8/21(日)	9:00 11:00 12:00 13:30 14:00 15:00 17:00	伊座利出発 上勝町着 直売所「いっきゅう茶屋」見学 昼食 野草料理？ 【フィールドワーク③】棚田 100 選「檜原の棚田」見学 【レクチャー③】高丸山ふれあい館 「千年の森の取り組み」 高丸山散策 宿泊：山の楽校 自然の宿あさひ
8/22(月)	9:30～10:30 11:00～11:30 13:00～14:30 午後 8:00	ゴミ 34 分別体験 【フィールドワーク④】NPO ゼロ・ウェイストアカデミーの取り組み くるくるハウス→日々谷ゴミステーション→くるくるショップ →くるくる工房 【フィールドワーク⑤】彩出荷場見学 【レクチャー④】彩事業説明「葉っぱビジネス」 【レクチャー⑤】木質バイオマス「チップボイラー」 阪急六甲駅前・ケンタッキーフライドチキン前着

※ 移動は貸切バスで行います。交通費は不要です。また宿泊所も大学が貸し切るため、宿泊費も不要です。食費のみ実費負担いただきます（1日 2,500 円、4 日間で 10,000 円程度ご用意下さい）。

※ 宿泊施設には最低限の設備・寝具しかないため、入浴などの用意は各自お願いします。

## テーマ(2) 大阪編

### 寄せ場と野宿の現場で希望を学ぶ

参加定員 15 名, 2011 年 8 月 26 日 (金) ~ 29 日 (月)

#### 背景

釜ヶ崎は、寄せ場、すなわち日雇労働者の街の中でも日本最大規模を誇る。大阪市西成区の北東端、面積にして 0.62 平方キロを占め、約 3 万人が住む。高度経済成長期以来、日本の社会資本整備を支えた日雇労働者たちは、景気減速とともに厳しい状況に置かれてきた。仕事にあぶれた労働者たちは野宿を強いられ、その果てに路上で亡くなる人の数は大阪市だけで年間約 200 人にものぼる。

バブル崩壊期の 1990 年代から、野宿者の背景が多様化した。日雇労働者以外の、リストラされた会社員や、住み込みで仕事をしていた人々が、野宿を余儀なくされるようになった。野宿する場所も、釜ヶ崎の周辺から、都市の中の公園や河川敷・高架下に移り、テント村が形成された。一方で、公園や路上などから野宿者は排除され居場所を追われてきた。排除の最も大掛かりなものとして、大阪市では 2006 年に靱(うつぼ)公園・大阪城公園、また 2007 年に長居公園において、行政代執行によりテント村が強制撤去されたことがあげられる。日常的には、行政による執拗な説得や、フェンスや花壇の設置、ベンチの「ホームレス返し」などによる、ソフトな排除が進行している。

以上のような厳しい状況下におかれながら、各地の寄せ場やテント村は、野宿者のみならず、一般社会から排除されがちな人々の居場所として機能してきた。この点において、私たちは多くを学ぶことができる。

#### 目的

寄せ場や野宿の現場は、人災の常襲地帯である。まずは、現場の人びとの怒りを感じてみよう。「可哀そうだから助けてあげよう」という、安易に他者を救済の対象とみなす発想が、現場の人びとからなぜ拒絶されるのかを理解しよう。むしろ、生き方を教えてくれる先輩として野宿者たちを尊敬する視座を獲得したい。とりわけ、釜ヶ崎やテント村を「怖い」「汚い」と捉える発想を批判的に検証し、多くの人びとを受け入れることができる包容力を発見しよう。そして、その包容力に、私たち一人ひとりがこれから生きていくうえで必要な、何らかの希望を見出すことができないうか考えてみよう。

#### 内容

1 日目は、参加者の自己紹介に引き続き、釜ヶ崎の概要を知るためにフィールドワークを行い、その後で釜ヶ崎の歴史について講義を受ける。夕方から、地域内外の子どもたちに遊びと休息の場所を提供している「こどもの里」を訪問する。しばらく子どもたちと遊んだ後で、館長の庄保共子さんにお話を伺う。子どもたちが野宿者を襲撃する事件が後を絶たないが、見かけ上の加害者である子どもたちを断罪するだけで思考停止せずに、子どもたちがおかれている現状を踏まえ、自分自身の社会における位置を自覚することを目指す。

2 日目午前中は、雇用創出などの分野で野宿者や若年失業者を支援している「NPO 法人釜ヶ崎支援機構」を訪問し、理事長の山田實さんにお話を伺う。「社会的企業」という言葉がなかった時代に既に同じようなことを考えていたという。釜ヶ崎における活動の歴史と、今の活動の様子を説明していただく。

午後は「NPO 法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)」を訪問し、釜ヶ崎で活動する若者たちから見た釜ヶ崎の魅力について語り合う。いくつかの活動の片鱗に触れることができるかも知れない。夜は、支援団体「野宿者ネットワーク」の夜回りに参加し、路上で夜を過ごす野宿者たちを訪問する。

3 日目は、西成公園テント村を訪問し、同日開催される「夏の集い」の準備から撤収作業まで参加し、野宿当事者や支援者と交流する。この実習の参加者には、何らかのかくし芸を披露することが要請される。

4 日目は、早朝に「あいりん総合センター」で求人求職が行われている様子を見学する。休憩の後、長居公園テント村跡地近くにあるフリースペース「オシテルヤ」を訪問する。野宿から居宅生活保護に移行した人たちや、その他多くの人たちの居場所の運営の様子を伺うとともに、長居公園テント村における行政代執行をテーマにした映画を鑑賞しながら、希望について想いを巡らす。その後 4 日間の経験をふりかえり、懇親会を持つ。

宿泊は、釜ヶ崎地区内の簡易宿泊所を予定している。

◎日程（内容や実施時間等に変更の可能性あり）

事前学習		
未定※		神戸大学国際文化学部内にて。3 時間程度。 原発における被曝労働と寄せ場の関係に関する文献の講読(予定)
現場実習		
8/26(金)	9:45 10:00~10:30 10:30~12:30 13:30~15:30 16:00~18:30 19:30~22:00	JR 大阪環状線「新今宮駅」東改札口集合 【参加者顔合わせ】 【釜ヶ崎フィールドワーク<前半>】 案内:水野阿修羅さん 【釜ヶ崎フィールドワーク<後半>】 講演:原口剛さん(大阪市立大学都市研究プラザ研究員) 【こどもの里訪問<前半>】 こどもたちと遊ぶなど 【こどもの里訪問<後半>】 講演:荘保共子さん(こどもの里館長) 宿泊(釜ヶ崎地区内の簡易宿泊所)
8/27(土)	9:00~12:00 13:00~15:00 15:00~18:00 19:30~22:00	【NPO 法人釜ヶ崎支援機構訪問】 講演:山田實さん(釜ヶ崎支援機構理事長) 【NPO 法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム) 訪問】<前半> 講演:原田麻以さん(ココルーム, カマン!メディアセンターディレクター)(予定) 【ココルーム訪問】<後半> インフォーマル生業体験など(予定) 【野宿者ネットワーク夜回り参加】 宿泊(釜ヶ崎地区内の簡易宿泊所)
8/28(日)	詳細未定	【西成公園「夏の集い」参加】 宿泊(釜ヶ崎地区内の簡易宿泊所など)
8/29(月)	4:30~ 6:30 11:00~15:00 15:00~17:00 18:00	【早朝の「あいりん総合センター」見学】(希望者のみ) 【オシテルヤ訪問】 居場所について、テント村の強制排除について、他 【ふりかえり】 【懇親会】 解散(大阪市営地下鉄「長居駅」付近)

※決定次第、告知します。





# 2011 年度「地域に根差し人に学ぶ実践塾」参加申込書

ふりがな		学籍番号	
氏名		所属サークル	
郵便番号 住所	〒		
E-mail アドレス	(携帯電話)	(携帯電話以外)	
電話番号	(携帯電話)	(携帯電話以外)	
ボランティア保険（兵庫県ボランティア・市民活動災害共済）の有無			有 ・ 無

## テーマ選択

参加を希望するテーマに○を記入してください。

	テーマ(1) 漁村と山村から環境とまちづくりを考える ※バスで移動のため部分参加不可
	テーマ(2) 寄せ場と野宿の現場で希望を学ぶ ※部分参加応相談

※事前学習会に参加できないという方は、学生ボランティア支援室にご相談下さい。担当者がある日に支援室に来ていただき、簡単なレクチャーと事務連絡を行います。

## アンケート（自由に記入してください。実習実施の参考とします。）

①参加の動機, ②何を学びたいか, ③その他

※ご記入いただいた情報は「地域に根差し人に学ぶ実践塾」実施のためにのみ利用されます。この利用目的の適正な範囲内において「地域に根差し人に学ぶ実践塾」の資料を作成し、その他の目的には利用されません。